

岐阜女子大学

「デジタル・アーカイブ速報」No.12

岐阜女子大学

〒501-2592 岐阜市太郎丸 80
フリーダイヤル 0120-661184
URL <http://www.gijodai.ac.jp/>

岐阜女子大学大学院

☆通信教育事務局
〒500-8813 岐阜市明德町 10 番地 杉山ビル 5F
TEL 058-212-3257 FAX 058-212-3258
URL <http://www.gijodai.jp/graduate/>

最近のデジタル・アーカイブの資料の 撮影・測定・記録

デジタル・アーカイブは、1990年代までは、映像データの記録・管理・プレゼン等が主でありました。最近になり、文化財、文化活動、自然、さらに教材としての活用に向けて正確な位置、気温、時刻等、創造活動に必要な基礎データなどの多様なデジタル・データの利用が始まりだし、デジタル・アーカイブも新しい展開がみられるようになってきました。このため、著作権等の知的財産権、所有権、プライバシー等の課題と併せ、デジタル・アーカイブの新しい撮影・測定・記録の方法の理解が必要となってきました。

～映像から多様なデータの利用～

特に、最近ではデジタル映像と位置情報、時刻等が、同時に記録が可能なハイビジョンカメラの市販もされだし、誰にでもこれらの情報の利用ができるようになってきました。そこで、かつての簡単な動画、静止画、図形、音声、文字情報を記録したデジタル・アーカイブ化から、多様なデジタル・データの特性の利用へ、ゆっくりですが変わってきています。

新しい展開に適応できるアーキビスト

そこで、デジタル・アーキビストとしては、様々な情報が、デジタル化によって新しいアーカイブ化の展開、さらに提示資料

等の新しい創作活動が始まりだす、その方向性を考えていかないと、数年後のデジタル・アーカイブ化の展開に適応できなくなります。

デジタル・アーカイブの多様なデータの 組み合わせ

～撮影・測定・記録の課題について～

現物のデジタル化は、古文書、印刷物、写真など紙やフィルムなどを媒体とした各種資料のスキャナーを用いたデジタル化、ビデオ、音声、文字情報などのデータ記録・管理から始まりました。

これらのデータの撮影・記録での著作権、所有権、プライバシー、個人情報の取り扱いなどについては、十分注意され、デジタル・アーカイブ化の仕事をしてください。

また、映像データなどは、何か所から同時に、静止画・動画で多視点の撮影とその記録処理、広角レンズ（180度など）やEgg レンズを利用した全方位(全周囲)等の撮影とその処理もデジタル・アーカイブ化に利用が可能になってきました。

～日常的に利用できる価格と簡易化～

特に最近では、かつての高価でデジタル・アーカイブ化の仕事で入手困難であった各種の機材が、日常的に実際に利用できる価格になってきました。

多様な情報を新しい機材たとえば、GPS、地図等のデータの利用できるデジタルビ

デオカメラが開発されだし、デジタル・アーカイブ化にあたって、動画、音声、静止画と位置・時刻等のメタデータとしての利用が簡易化されだしています。

デジタル・アーカイブ化もかつてのスキヤナー、デジタルカメラ等で、映像とそのメタデータとしての説明などの記録から、位置・時刻・温度・3Dデータ（立体スキヤナー）など多様なデータも組み合わせて、次の世代への継承や新しい創作活動等の利用が進みだしました。

ぜひ、デジタル・アーキビストの各資格の更新者は、各種データの組み合わせ、次の世代に何を伝えるか、また、新しい情報活用の在り方を検討して下さい。

1) 映像（動画・静止画）、GPS（位置・時刻データ）の記録

～最近のデジタルハイビジョンカメラより～

動画、静止画、GPS や地図の利用ができるデジタルハイビジョンカメラが市販されるようになりだし、今後のこれらのデータを使うとデジタル・アーカイブの記録にとって大変便利になると考えられます。

～1台で多様なデータの記録ができる～

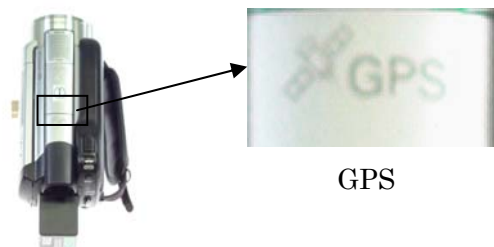
これまでは、次のように GPS の機材を用いて、撮影の都度測定をしていました。

GPS の情報



それが、ビデオ撮影(ハイビジョン動画)

と同時に静止画と GPS で位置情報等が測定・記録できるようになってきました。(ただし、高精度の位置データの測定にはまだ高価な GPS 装置が必要です。)



GPS



GPS データ 長良川

2) 「静止画と位置・時刻を組み合わせたデータ記録」

静止画と GPS（位置データ）の利用は、デジタル・アーカイブ基礎データとして、すでに多くの利用がされています。たとえばデジタルカメラと GPS を組み合わせ、静止画を撮影した位置・時刻情報（緯度、経度、高度）の記録は、デジタル・アーカイブの基礎データとして、自然の記録、地域資料の記録を「どこで」、「いつ」撮影したかを表示するメタデータとなっています。



N : 36° 24' 15"
E : 136° 53' 12.8"
高度 : 332m

特に、最近の市町村等の合併や地名の変更で、変わらない位置データとして GPS を用いた撮影・記録は、デジタル・アーキビストの基礎となっています。また、最近の位置情報として、GPS による経度・緯度を基本(一つの見出し語)として、その地図上での表示など、

「デジタル・アーカイブ」として、 「どこに」、「いつ」

あったかを次の世代に伝える 1 つの方法として、今後その利用を進める必要があります。

3) 「GPS 機能を付けたデジタルカメラ」

GPS をデジタルカメラの機能として持つカメラもすでに、何機種か市販されています。これらのカメラも利用目的によっては、大変便利です。



GPS 付きのカメラ

(注) GPS 付きのカメラは、すでに何種類も製品化されています。今後、デジタル・アーキビストとして活動する人には、簡単なカメラでよいので、1 台は欲しいものです。(いざと言うとき、まず、基本的なデータとして GPS と映像の記録が必要です。)



表示 (GPS)

これらのカメラは、静止画と GPS (位置、時刻) を記録したデジタル・アーカイブの構成には欠くことのできない機材です。

特に、デジタル・アーキビストとして文化財・文化活動や植物、動物などの自然観察でも、「どこで」「いつ」の基礎情報をいつも自分で記録しておく習慣をつけた活動が望まれます。

～小学生にも「いつ」「どこで」～

特に、小学生の活動でも、「いつ」「どこで」が習慣化された理科・社会科の教育での利用を望みたいものです。それには、カメラの「いつ」「どこで」が、もう少し子供にも理解できるカメラが市販されれば、教育に役立つと思います。

デジタル・アーキビスト資格取得者、特に学芸員、図書館司書、教員、メディアの人たちは、子供より先を行ってほしいと思います。

4) 「温度など撮影・記録場所の環境情報」

デジタル・アーカイブを次の世代に伝えるとき、メタデータとして何を記録しておくかは、その作成の目的と対象物によって違いがあります。

たとえば、昔の文書 (古文書) 等は、これまで、すでに各分野で決められている博物館、公文書館、図書館、歴史資料館など

のメタ情報の記録の他に、そのデジタル化の場所、時刻が記録されることでしょう。また、古い写真などのデジタル・アーカイブ化などは、その撮影された位置が判断できれば、再度その位置からどのように撮影された写真であるか、その状況も撮影・記録される方法も用いられるようになってきました。

～位置、気温、時刻などの記録～

ところが、植物、動物などの自然や生活文化の記録には、位置情報のほかに、温度が、それぞれの環境情報として重要になってきます。植物、動物は、気温によって存在している場所が変化します。生活文化も、その食生活、住居など全ての分野で変わってきます。たとえば、数十年、数百年、数千年の間には、気温が変化し、生存している動植物の種数も変わってくるでしょう。

～気温変化と自然社会の変化～

このため、現在の気温を情報として記録することは、今後、気温の変化で、気温によってどのように変化したかを判断する重要な情報であります。この他に、現在を次の世代に伝えるために、何をメタ情報として、記録をしておけば、役立つか考えて、デジタル・アーカイブを作成すべきです。

～次世代に何を残すか～

また、各デジタル・アーカイブを開発する分野によって決め、後の世代の人々から、役に立たないデジタル・アーカイブを平成時代の人達は残してくれたものだと言われたいようにしたいものです。

研究者は当然ですが、市町村の関係者、教育関係者、博物館、図書館、メディア・企業関係者等で、ぜひ、何をデジタル・アーカイブとして、次の世代に伝えるか、そ

の情報カテゴリーを決めて仕事をして下さい。

(後藤)「デジタル・アーキビスト更新テキスト」より

～デジタル・アーカイブとして何を記録～

かつての映像提示を主としたデジタル・アーカイブから、多様な新しい情報の利用が始まり、最近では各種のデジタル・データを用いた、デジタルとしての特性のある情報構成が始まりました。このためには、その基礎データの整理が必要です。

～文脈性のあるコンテンツの開発～

たとえば、位置データから、歴史的な関連との対立は、GPSの位置データを基礎情報として、関連情報の整備が可能になってきます。とくに、デジタル・データを用いた文脈のあるコンテンツの制作が、今後のデジタル・アーカイブのひとつの方向性と考えられます。私達は、まだこれまでの映像中心からデジタル化によって得られる多様な情報を用いたデジタル・アーカイブの今後の新しい展開がまだ見つけられていません。

～デジタルの竹簡の時代から～

デジタル・アーカイブは、私達のデジタル化には、まだ竹簡での記録の初期の時代に相当し、記録する内容が文化の成立としては、これからだと思います。文字等の情報の記録が竹簡から紙へ移り、大きな文化活動に変化してきたと同様に、まだ先のようにです。竹簡や紙に文字を記録（書いた）時代の書道とデジタル・アーカイブの情報活用技術とは同様に、そこに、いかに文化を植えつけるかにあります。